校友時報

昭和49年12月12日
編集人兼発行所
秋田県能代市高砂2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

公示期間30日
―低い生徒の関心―

生徒会選挙終わる
期待される公約の実現

三人の候補者が立つということは最近例をみない。それも会員が、自ら進んでのことである。しかし三人の心意気に反し、選挙は低調であった。これは校舎移転と選管の怠慢さえなかったなら、もっと盛り上がったのであろうか。生徒は言う。「会長なんて誰がなっても結果的には同じことさ」と能高生は、ほんとに〝自治〟を忘れているのだろうか。新会長は、会則改正を軸に制服自由化、三種分立の公約をうちだした。（支持率三〇%）

今回の選挙は三十七日間にも及ぶ長い公示期間を要したわりには、一般生徒の関心を高まることなく、低調なものであった。十月一日の公示による立候補で無く、選管では会則に基づき、一年生各HRからの候補者選出を決めた。しかし、半強制によることに対し批判の声があがり、混迷の後、校舎移転を終えて間もない十一月二日、自発的な立候補により、今回の会長候補三名が出揃った。

選管は、旧執行部の任期をそれ以上延長することは避け、急きょ七月に演説会、続いて投票を行なうことに決めた。選管の怠慢によりすべては、当日の朝になってようやく公表され、正午から演説が始められた。実質的運動期間は三日のみで、一部を除いては、ほとんど行われず、ポスターも貼られなかった。そのためわずか十数分で終わった演説会での印象しか一般生徒には与えられなかった。

そして、候補者の同意のもとに当選が会長に次点が副会長になるということを伝えて、各教室に入っての投票に移った。

開票は、即日視聴覚室で行なわれ四十分ほどで大勢が判明した。各候補とも、自分のH・Rでは、十割に近い得票数をあげた。

当選の菅原君（二G）は、一年四三%、二年二八%の支持にもかかわらず、三年A・Pでは七%と際だって低い。ちなみに次点の伊藤君（二B）は、一年二一%、B以外の二年三%、三年二四%である。（百分率の基準は対象全有権者数である。）

なお、三候補の合計得票数は、七八〇票で全体の七六%、学年別有効投票数は、一年二八九票、二年二九〇票、三年一七五票である。

会長就任にあたって

生徒会長　菅原恒紀

菅原君
2G

まず最初に、生徒会長を常に能高生一人一人の利益となるように考える公的人間で動めたいと思います。（田中〇〇さんのようではない）

僕が、一番やりたい事と言うのは、はっきり言って制服の自由化です。何故制服を自由化するのか、それは前にも言ったように、今の学生服が古くさいとか、軍国主義の遺物とか言う理由ではなく、僕達一人一人を服装という面において、独立した自分自身の判断力を持った人間として認めて欲しいと言うのが理由です。たとえば同じカレーを食べるにしても、メニューがカレーしかないのと、メニューがたくさんある中からカレーを食べるのとはちがうわけです。つまり前者は、お前達は学生なんだからカレーを食べなさいと言っているのと同じわけです。そこには僕達が、生まれながらにして持っている選択の自由がないわけです。一人の独立した一個の人間として認められていないわけです。制服についても同じ事が言えると思います。だからこそ制服の自由化を行なう必要があるのではないでしょうか。たしかに今の生徒会は制服の自由化を行なう前に解決しなければならない問題がたくさんあります。決してこれらの問題をおざなりにして、制服の自由化を行なうと言うわけではありません。これらの問題を一つ一つ解決した上で制服の自由化を行なおうと思います。

次に三種分立についてですが、どのような形になるかについては前に言ったように、司法は現在の風紀委員会を独立させて行ない、行政は企画部、立法は生徒委員会ならびに生徒総会と言う形で行なうべきと思います。どのような形で運営してゆくかについては、風紀委員会と学校との兼ね合いがありますので、まだはっきりした事は現在は言えません。またこれを実行するには、現在の会則を改正しなければならない。他の点でも現状と会則が合わない面がありますので、これらの問題もふくめて会則改正準備特別委員会を設けたいと思います。

〝心意気〟を示す

応援団長　斎藤実

斎藤君
2E

もう一つの担負は、というようこれは絶対であると思いますが、伝統は必ず継承させるということです。伝統とは先輩から先輩への受け継がされたものです。

現在考えていることは、演説でも述べましたが、応援団は、心意気を表わすもので、これは試合中我々応援団が忘れてはならないものだと思っています。

我々応援団にとって、大変大事なものですが、その伝統が何を表わすものかというと、私は、能代高校生の心意気を表わすものだと思っています。来年で五十年を誇る我応援団の伝統を種子山からこの地に移ったとても、場所の違いこそはありますが、よりいっそう伝統を大事に守ってゆき、また〝伝統〟という能代高校の心意気を表わすものをもって我々応援団が心意気を持って応援すれば、私はりっぱな応援ができると思っています。

投稿募集

新聞部では学校・生徒会に対する意見・要望あるいは、日々の生活での体験など皆さんの投書を募集しています。

新聞部

学生のみせ
キムラヤ
畠町
2―5535

〝点〟

▼夜風が五体を通り抜ける。いくばくかのガス灯を頼りにかじんだ手で網を引く。今日も大漁であることを願いつつ。夜のしじまにとけ込んでいく。十七年前、大潟村の大地の下では絶え間ない魚部たちのかけ声に発動機の音だけが妙に以つかわしく湖岸にとどろいていた。魚の宝庫であった八郎潟が穀倉地帯をめざして干拓の工事を始めたのが昭和三十一年四月であった。ちょうどその頃東京で生まれ育った私は、物心のつかないながらあの広大な満々と水をたたえた湖面を横切る船に乗って大きな自然に驚嘆していた頃だと思う。

▼最後の五次入植が完了し、大潟村が開村十周年を迎えた今、結果の良否を問うのは早すぎるであろうか。干拓前、ガンガン部隊（行商の人々）を含めれば約三百人が八郎潟の漁業で生きていたのである。干拓によってその生活の場の転換を強いられた地元漁民は現在、全て湖岸あるいは大潟村内に耕地の配分を受け農業を主体として自活している。パイオニア精神にあふれた農業者を全国から募集し、日本のモデル農業を行なうという新農村建設の理念は、足りなかった米が逆に余り、生産調整を余儀なくされた情勢変化の中で様々な困難に直面しながらもモデル農村をめざして、生き続けてきている。そして今大潟村で生産される米は沖縄県の全消費量に相当する量を収穫しているのである。

▼夏休みいく度か大潟村に行ってみた。緑の豊かな大地と化した大潟村にはどこにもかつてのおかげを見ることができない。わずかに残存湖だけがその一端を感じさせるのみである。

▼こんな大自然を改造したのはほんのちっぽけな人間の所作に過ぎないとは――。人間が偉大なる自然に働きかける所為は重大な結果をもたらすことは必ず返して来る。時にはそこに住む人間の生活様式までも変えてしまうのである。人間がそれまで保ってきた自然との調和を何にかの手段によって変える時、そこにおどろうべき変化の結果を目的とするが、それが人間にとってよい結果をおもたらさねばならないのである。

（近藤）

メガネの カモヤ
畠町 TEL (01855) 2－3740

MEN'S CORNER TOP
のしろ・やなきまち6-19 TEL-2-0431

小さな商品でも価値ある品
吟味された提供品ばかり
学生の店
文具のアベ
能代市追分町1の30
TEL 2－5311

KODAK SAFETY FILM
冬を美しいカラー写真で！
西巻写真工房
中和通り T②－0068
→11A　→11B　→12A

PANTS☆☆SHOP 幸ちゃん服

スポーツに青春をかけよう!!
納谷スポーツ
西通り町 TEL 2－3429